

(臨床研究に関するお知らせ)

社会医療法人愛仁会高槻病院で人工股関節手術を受けられた患者さん、軽症脳卒中で入院された患者さん、初期もの忘れ外来に通院歴のある患者さんへ

社会医療法人愛仁会高槻病院では、以下の臨床研究を実施しています。ここに御案内するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、当院倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われた方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

疾患別身体組成評価指標（骨格筋量指数 SMI、位相角 Pha）と運動、嚥下、認知機能の関係

2. 研究責任者

社会医療法人愛仁会高槻病院 リハビリテーション科 主任部長 櫻 篤

3. 研究の目的

人工股関節手術を受けられた方や脳卒中で入院された方は、リハビリテーションによる筋肉の変化を評価する意味で身体組成分析装置を用いて骨格筋量を含めた体組成分析を InBody という装置を使用して測定しています。また、運動習慣は認知機能低下を抑制するとの報告がみられることより、初期もの忘れ外来受診者さまにおいても身体組成分析装置を用いて骨格筋量などを測定しその結果を参考に認知症にならないような生活運動指導を行っています。身体組成分析装置で筋肉量と同時に測定される位相角（フェーズアングル、PhA）に関しては不明な点が多くこれまで注目されていませんでしたが、近年その意義が注目されてきましたので、過去に測定されたデータを抽出・解析し、疾患別に筋肉量と比較検討し各種疾患の病態解析を行い、今後の治療に役立てたいと考えています。

4. 研究の概要

(1) 対象となる患者さん

2019年5月～2021年5月の間に当院で人工股関節手術を受けられた方、脳卒中で入院された方、初期もの忘れ外来を受診されて、身体組成分析装置で体組成を測定された方。

(2) 利用させて頂く情報

基本属性：性別、年齢、身長、体重

問診票：もの忘れ問診票（本人、家族）、フレイル基本チェックリスト（KCL-25）

運動機能：握力、歩行速度、3mTimed up Go test(3mTUG)、下肢筋力

口腔言語嚥下機能：オーラルフレイルチェックリスト、舌圧、反復空嚥下検査（RSST）、パタカ発声回数、口腔乾燥度、咀嚼能力

体組成分析：筋肉量、位相角

神経心理検査：HDS-R、MMSE、MoCA-J、FAB、GDS-15